

TICK-PROOF BEDDING

JP Kokoku Publication No. Hei-07-32735

Publication number: JP4341218

Publication date: 1992-11-27

Inventor: SHIMIZU SHIZUKA

Applicant: YAMASEI KK

Classification:

- international: A47C27/12; A47G9/02; B68G7/05; A47C27/12;
A47G9/02; B68G7/05; (IPC1-7): A47C27/12; A47G9/02

- european:

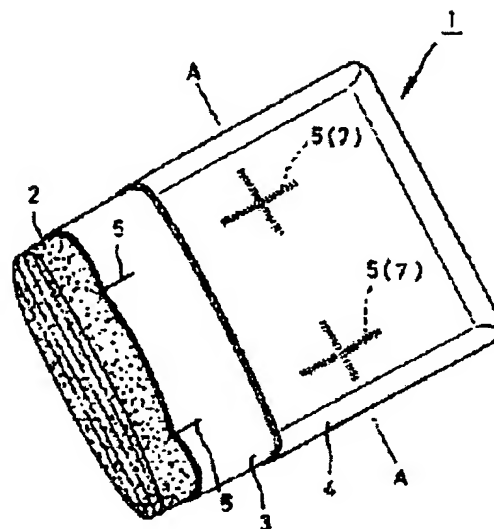
Application number: JP19910139465 19910516

Priority number(s): JP19910139465 19910516

Report a data error here

Abstract of JP4341218

PURPOSE:To provide the tick-proof bedding which does not spoil an advantage obtained by a kilting processing especially, and is not influenced by tick allergen. **CONSTITUTION:**In the tick-proof bedding formed by covering inner cotton 2 with bag-like cloth which becomes side cloth, said cloth is formed by an inner bag 3 for covering the inner cotton 2 and an outer bag 4 for covering the inner bag 3, and also, sealing it up tightly so that a tick, etc., do not pass through, and on the other hand, kilting is performed from the outside of the inner bag 3, and the inner bag 5 and the outer bag 4 are formed integrally by an adhesive agent 7 applied along this kilting part 5. As for other constitutions in said tick-proof bedding, it is also allowable that said cloth is formed by an inner bag 13 for covering the inner cotton 2, and also, sealing it up tightly so that a tick, etc., do not pass through, and an outer bag 14 for covering the inner bag 13, and on the other hand, kiting is performed from the outside of the inner bag 13 and the inner bag 13 and the outer bag 14 are formed integrally by an adhesive agent 7 applied along this kilting part 5.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11) 特許出願公告番号

特公平7-32735

(24) (44) 公告日 平成 7 年 (1995) 4 月 12 日

(51) Int.Cl. ⁹	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 7 C 27/12	Z	6908-3K		
	L	6908-3K		
A 4 7 G 9/02	F	6908-3K		
B 6 8 G 7/05	Z	7111-3K		

請求項の数 2 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平3-139465
(22) 出願日 平成 3 年 (1991) 5 月 16 日
(65) 公開番号 特開平4-341218
(43) 公開日 平成 4 年 (1992) 11 月 27 日

(71) 出願人 591127102
株式会社山清
東京都練馬区光が丘 5-6-4-307
(72) 発明者 清水 静
東京都練馬区光が丘 5-6-4-307
(74) 代理人 弁理士 山本 秀樹

審査官 和泉 等

(56) 参考文献 特開 平 2-161912 (J P , A)

(54) 【発明の名称】 防ダニふとん

1

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 側生地となる袋状の布帛で中綿を被覆すると共に、ダニ類が通過しないように袋状の接合周囲部を密封処理した防ダニふとんにおいて、前記布帛は中綿を覆う中袋と、前記中袋を被覆すると共にダニ類を通過しないように密封する外袋とで形成する一方、前記中袋に中綿を入れた状態で中袋の表裏面にあって縫糸を刺して中綿を動かないように複数箇所キルティングを施し、かつ、このキルティング部に沿って塗布される接着剤により中袋と外袋とを接合一体化したことを特徴とする防ダニふとん。

【請求項 2】 前記キルティング部が略十の字状である請求項 1 に記載の防ダニふとん。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

2

【産業上の利用分野】 本発明は、防ダニふとんに関し、特に中綿に生息しているダニ類による汚染をなくした防ダニふとんの改良技術に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来技術】 ダニアレルギーによる喘息発作はダニの糞、死骸、脱皮殻、卵などダニアレルゲンを体内に吸い込むことによるものである。この吸い込みの多くは、ふとんに浸入生息しているチリダニ、ホコリダニなどのダニが就寝後に摂取されるといわれている。そこで、このようなダニ対策としては、特開昭 62-159692 号公報や特開昭 62-127097 号公報などで知られている如く、寝具類を構成する詰物や側生地に各種の防ダニ剤を保持させて、詰物などに浸入生息しているダニを殺したり追い出すようにしたものもある。なお、前記ダニは通過間隔が約 50 ミクロク以下になると全て通過で

きなくなるということも判明している。このダニの通過間隔に着目した防ダニ対策例としては、特開昭62-213707号公報などに示される如く寝具類用カバーではあるがその通気性を特定した布帛を用いて、寝具類と外部とを遮断するようにすることも提案されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、詰物や側生地以防ダニ剤を保持させる前者の方法では、次のような問題が生じて一般的なふとんに適用したとしても根本的な対策とはなり得ない。つまり敷ふとん、掛けふとん、座ふとんの場合には、側生地となる袋状の布帛で中綿を被覆した後、布帛の外側からキルティングを施して中綿のずれ防止や模様付けを行う。このようなキルティング部には針で縫い込んだ穴ができておりこの針穴に縫糸が差し込まれているものの、通常は50ミクロン以上の隙間が生じている。したがって、ダニ類に対して非通過の側生地を用いて袋状内に中綿を密封したとしても、キルティング部から各種のダニが出入りし、防ダニ剤による効果が有効に得られない。さらに、もめん綿、絹綿、化繊綿などからなる中綿に各種の防ダニ剤を保持させる場合には、防ダニ剤がむらなく均一に保持されることが好ましいが、このような作業は自動化することが難しく、経済性に欠けるばかりでなく防ダニ剤で作業者の手のかぶれや健康を害し易い。またふとん使用したときの防ダニ剤による臭いなどの弊害もある。

【0004】そこで、本発明の目的は、上述の問題点を一掃して、特にキルティング処理による利点を損なうことなく、アレルギーによる影響を受けることのない防ダニふとんを提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成するために本発明は、側生地となる袋状の布帛で中綿を被覆すると共に、ダニ類が通過しないように袋状の接合周囲部を密封処理した防ダニふとんにおいて、前記布帛は中綿を覆う中袋と、前記中袋を被覆すると共にダニ類を通過しないように密封する外袋とで形成する一方、前記中袋に中綿を入れた状態で中袋の表裏面にあって縫糸を刺して中綿を動かないように複数箇所キルティングを施し、かつ、このキルティング部に沿って塗布される接着剤により中袋と外袋とを接合一体化したことを要旨とする。また、以上の構成において前記キルティング部が略十字状であることが好ましい。

【0006】

【作用】以上の構成によれば、従来の側生地となる袋状の布帛を中袋と外袋との2重構造とし、かつ外袋をダニ類を通過しないように密封するようにしたので、例えば、製造過程などでダニが中綿に浸入したとしても外袋から外部へ出ることがなく、しかも密封構造により外部からダニ類が浸入することもない。そして、本発明は、中袋の外側から複数箇所にキルティングを施しているの

で、中綿と中袋との一体化が従来と同様になされ、かつキルティング部に沿って塗布される接着剤を介して中袋と外袋とを一体化したので、外袋の表面は針穴がいっさいなく前述の防ダニ作用に加えて、中綿と中袋および外袋の一体感が得られ、使い勝手がよく、しかも前記キルティングの施し方などを任意に設計して全体の意匠感ないしは高級感を付与することが可能となる。なお、本発明のふとんは、掛けふとんや敷ふとんに限られることなく、座ふとんやコタツふとんなどの寝具類も含むことは勿論である。

【0007】

【実施例】以下、本発明を具体例として示した図面に基づいて説明する。図1から図3は本発明の第1実施例を示している。同図の防ダニふとん1は中綿2を従来と同様に側生地となる袋状の布帛で被覆しているが、この布帛としては中袋3と外袋4の2重構造を採用している。中綿2はもめん繊維に上質ポリエステル綿を混入したものをを用いている。この中綿2は、製造工程の初期段階で乾燥および熱処理が施された後、中袋3により被覆される。中袋3はダニ類が生息し難い純綿の布を用いており、裁断および縫製加工により所望大の袋状に形成されている。袋状の表裏外面にはキルティング部5を施す部位にチョークなどで目印が付され、中袋3に中綿2を収納してから中袋3の挿入開口を縫製または接着によって閉じたものである。キルティング部5は十字状をなして合計4箇所設けられている。このキルティング部5としては、中綿2と中袋3とを一体化して相対的なずれを防ぐと共に、中綿2を覆う中袋3の形状に変化を与えて全体の意匠感を得るものであり、その具体的な形状および設置箇所などは任意に工夫設定することができる。また、このキルティング加工は、通常、専用機により前記目印に沿って刺し縫いを行うが、手縫いでもよい。中綿2は中袋3で完全に収納され、キルティング部5により複数箇所一体化された状態となっている。この一体物は全体を外袋4によって被覆されるのであるが、ここの処理が本発明の要部となるもので、以下、図2および図3によりその詳細を説明する。

【0008】図2はキルティング部5の断面を示しており、中袋3の表裏面に対して上下方向に縫糸6が中綿2を通して刺し入れられ、中袋3の表裏面が縫糸6で吊り込まれている。そして、中袋3の表裏面にあるキルティング部5には接着剤7が塗布されて、図3に示す如く中袋3を外袋4の内部に収納したときに塗布された接着剤7により中袋3と外袋4とが表裏とも各4箇所一体化される。ここで、外袋4は中袋3を被覆すると共にダニ類を通過しないように形成されている。実施例では布帛を使用したか、織布に限られず不織布でもよい。要はダニ類が繊維相互の隙間から出入りできない布帛を使用する。この布帛は密織り以外に、目潰し加工など後処理によりダニ類に対する非通過を付与してもよい。なお、こ

のような布帛例としては特開昭62-213707号公報に記載されたカバーと同じものを代用することができる。また、この外袋4は裁断および縫製加工により所望大の袋状に形成され、図3に示す如く各側4a、4b、4dの縫製部8に表裏から接着剤9を塗布して熱プレスした。これは、ダニ類の非通過性を確実化するためであり、中袋3を収納した後に外袋4の挿入開口側4cも同様の処理を行って縫製による針穴を完全に封止した。一方、接着剤7は、中袋3の表裏面にあってキルティング部5に沿って塗布されるが、この塗布作業は用いる接着剤の状態にもよるが外袋4に中袋3を収納する前に行ったり、粘性に富む場合などには外袋4に収納した後に行うことも可能である。また、接着剤7としては各種のものをを用いることができる。好ましくは接着作用に加えて接着した外袋4を所定条件下で剥離可能であれば、例えば外袋4を洗濯したり、中綿2の交換や打ち直しなどが容易となる。このような観点から実施例では、水性接着剤の内、特に水にしたすと容易に剥離する接着剤で商標名SP210（コニシ株式会社製）を使用した。この接着剤7は前述の外袋4の挿入開口側4cを封止するためにも使用した。つまり、キルティング部5に沿って適宜な方法ではば均一に塗布した後、接着剤7が乾かないうちに外袋4の表裏面から押し付けて中袋3と外袋4とを完全接着させ、その後、外袋4の挿入開口側4cを仮縫いして接着剤7をむらなく塗布した。次に、約80度に加熱したアイロンをかけて接合部が均一かつ見栄えよく仕上がるようにし、これを高温処理機にて処理して外袋4の内側に1匹のダニも残らないようにして完成品とした。

【0009】以上、本発明の防ダニふとん1は、側生地となる袋状の布帛を中袋3と外袋4との2重構造とし、外袋4をダニ類を通過しないように密封したので、例えば、製造過程などでダニが中綿に浸入したとしても外袋4から外部へ出ることがなく、このような密封構造により外部からダニ類が浸入することもない。しかも、中袋3の外側から複数箇所にキルティングを施しているの
で、中綿2と中袋3との一体化が図られ、かつ各キル
ティング部5に沿って塗布される接着剤7を介して中袋3
と外袋4とを一体化したので、外袋4の表面には針穴が
いっさいなく防ダニ作用に加えて、中綿2、中袋3、外
袋4の一体感が得られる。したがって、本発明は従来と

同程度に使い勝手がよく、防ダニ作用に加えて、既存のキルティング部と全く異なる斬新な意匠感ないしは高級感を付与できるのである。

【0010】なお、本発明は、その技術的思想を具体化するに際し要部以外についてはこの技術を基に種々変形ないしは展開することができるものである。

【0011】その一例としては、上記実施例の中綿2などには防ダニ剤を一切混入したり保持しないようにして従来の防ダニ剤使用による弊害を受けないようにした、
10 が、例えば中綿2や中袋3に微量の防ダニ剤を混入ないしは保持してもよい。この場合は完成品を高温処理しなくても製造過程などで浸入したダニ類がその防ダニ剤により防虫される。

【0012】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の防ダニふとんは、従来の側生地となる袋状の布帛を中袋と外袋との2重構造にしたこと、かつ外袋からダニ類が通過しないようにしたこと、ふとんからダニアレルゲンの発生がなくなって人体への悪影響を大きく減少することができる。そして、本発明は、中袋の外側から複数箇所にキルティングを施すと共に、キルティング部に沿って塗布される接着剤を介して中袋と外袋とを一体化したので、外袋の表面は針穴がいっさいなく防ダニ作用に加えて、中綿と中袋および外袋の一体感が従来と同程度に得られ、使い勝手がよく、しかも前記キルティングの施し方などを任意に工夫設計してより斬新で幅広い意匠感ないしは高級感を付与することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る実施例の防ダニふとんを示す一部破断斜視図である。

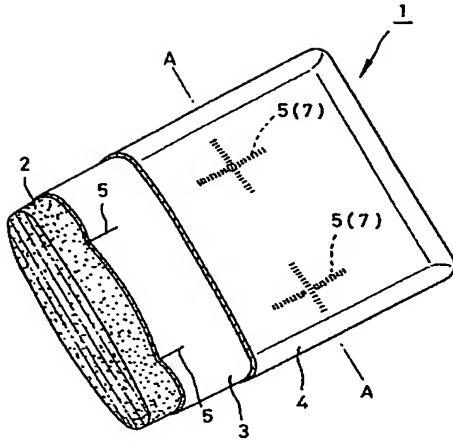
【図2】前記図1のA-A線に沿う要部断面図である。

【図3】前記防ダニふとんの完成品を裏側から見た平面図である。

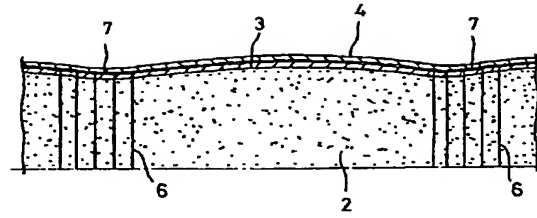
【符号の説明】

- 1 防ダニふとん
- 2 中綿
- 3 中袋
- 4 外袋
- 5 キルティング部
- 6 縫糸
- 7 接着剤

【図1】



【図2】



【図3】

